



小中一貫教育だより

令和 7 年 5 月 30 日 No.48
(小中一貫教育推進だよりから 通算No.118)
十日町市教育委員会学校教育課



4 月 21 日（月）幼保小の連携に係る研修 写真の説明は 6 ページ

巻頭言 『僕のアイデンティティ』

学校教育課 指導管理主事 長谷川 成生

担任として最後の子どもが、先日成人式を迎えました。5月の連休、十日町小学校の玄関前に保護者と子どもが集まり、その当時埋めたタイムカプセルを掘り起こし、懐かしい時間を過ごしました。私が「小学校の頃って、学校をどんなふうに思っていた？」と問いかけると、ある教え子が次のように答えてくれました。

「6年生の時の経験が、僕のアイデンティティです。あの経験がなければ、今の自分は考えられないし、今でも自分を支えています。」

私は、驚いて「どうして、そう思うの？」と聞き返すと、

「僕にとっての6年生の1年間は、あんなに悩んだことも、あんなに先が見えなかったこともない時間でした。自分たちですけれど、先生も相当追い込まれていましたよね。だって、答えがないことを一緒にやろうとしてくれていたんだから。でも、そこから学んだことが今の自分を支えているって本当に思うんです。そして、何よりも楽しかったです。あんな楽しい経験はなかなかないです。」と答えてくれました。涙が止まりませんでした。

実は、この教え子は、小学校最後の作文で次のように書いていたのです。

私は、この1年間の総合的な学習を通して大きく成長することができました。「自分たちで企画する」という難しさは、想像をはるかに超えるもので、そこには友達とのトラブルもたくさんありました。でも、毎回、それを乗り越えた先に言葉では言い表すことができないような達成感と楽しさがありました。そして、全体をまとめるには、自分さえよければよいのではなく、自ら率先して動く必要があること、そして、決して自分は一人ではなく大切な友達がいつもそばにいてくれることなど、たくさんのことを学びました。

私たち教職員は、「今ここ」の目の前の子どもに対して、勉強を教え、心を育てています。同時に、日々の教育活動は、10年後、20年後の未来を創っているということを、教え子の言葉から改めて教えられました。

とても忙しく、大変なこともたくさんある教職員の仕事。しかし、教職員は、未来を創る仕事でもあるということを改めて確認したいと思います。十日町市で目指す子どもの姿は、「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」です。子どもを前にして、10年後、20年後の「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる」姿を思い浮かべながら、日々の教育活動に向かってもらえたらこんなにうれしいことはありません。

小中一貫教育

■ 令和7年度の小中一貫教育実施計画(追加3項目)について

令和7年度がスタートして2か月が過ぎます。この間、中学校区の計画訪問でお話していることを確認する意味で書かせてもらいます。

1 令和7年度の重点「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた探究学習の推進

小中一貫教育の目指すもの(十日町市の学校課題の解決)の一つが学力の向上です。市内の小中学校の学力の現状は、NRT平均偏差値で見る限り、かなり厳しいものです。子どもたちが確かな学力を身に付けられるようにするために、昨年度の重点「小中と家庭で連携した家庭学習習慣作り」に加え、標記の内容を付け加えました。

文部科学省による「確かな学力」は、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力までを含めたもの」です。そうした学力を育むために主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められているのです。

この視点に立った授業実践例として、令和6年度の小中一貫教育だより「つながる」(1月31日発行)に川西中学校3年生の社会科授業を掲載しました。市のホームページや小中一貫教育フォルダ(職責別¥01_学校間共有¥03_小中一貫教育¥16_小中一貫教育だより「つながる」)からぜひご覧いただけます。ぜひ参考になさってください。

また、8月6日(水)午後には、文部科学省小中等教育局の田村学主任視学官をお招きして、市内の教職員全体研修を予定しています。

2 方策1 教職員のつながりの3点目(こ保小の連携の推進)

保育園や認定こども園は、年長児の小学校進学を視野に入れて「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」からアプローチカリキュラムを編成し、園児の学びの芽や非認知能力を様々な活動から育てようとしています。一方小学校では「スタートカリキュラム」によって、入学してきた子どもが小学校生活の始まりに伴う壁を乗り越えて成長できるように指導・支援をしています。

文部科学省では、保育園・認定こども園にあたる5歳児から小学校1年生までの2年間を架け橋期として、幼保小の協働による架け橋期の教育の充実を求めています(令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋期特別委員会)。

架け橋期の教育の必要性和充実を図るため、十日町市では、令和7年2月6日に市内の小学校長、特別支援学校長、保育園長、認定こども園長を対象として、幼保小の連携に係るオンライン研修会を実施しました。さらに、4月21日に幼保小の連携に係る担当者49人に対面での研修会(講演とワークショップ)を行いました。

今回の小中一貫教育計画訪問に保育園の園長・副園長を招いて、小中一貫教育の理解を図り、連携の具体的な計画を進めている中学校区もあります。ぜひ小中一貫教育に保育園・認定子ども園との連携を加えて、子どもたちの豊かな育ちを支えていただきたいと思います。

3 方策2 児童生徒のつながりの「学級・学年、他校、異学年、異校種の子どもたちの絆づくり」

昨年度までは、下線部分がありませんでした。小中一貫教育における市の共通取組事項は「居心地のよい学級づくりをベースとした自己有用感を育む教育の充実」です。絆づくりの中心は、学級・学年であるべきだという考えから加えたものです。

5月26日～6月6日には、第1回目のWEBQUを行います。結果はすぐに分かりますから、早期に事例検討会を行い、親和型の学級集団の育成（すでに親和型の学級には、活性度を高める方法）やアセスメントと対応策の検討を行ってください。令和7年度には100%の子どもがインクルーシブライン内に位置することを目指して個と集団の育成を進めてほしいと思います。

教育相談班より

市学校教育の重点 共通課題「不登校・いじめの減少」に向けて ～学校の組織力・対応力の向上を図ります～

全国的に不登校児童生徒が増加している中、十日町市ではR5年度から減少に転じ、R6年度はさらに減少となりました。減少の要因として、①「居心地のよい学級づくり」の取組を各校が丁寧に進めいただいたことで親和的な学級が増えたこと、②各校において校内教育支援センターの設置により、きめ細やかな取組や関係機関と連携した支援等が進んだこと、の2点が考えられます。

一方、「学校には登校できるが、教室には入れない」児童生徒が増加している状況にあります。今後も、教育相談センターによる学校訪問や、

相談員・スクールカウンセラー等による支援の充実を継続するとともに、**新たな不登校を生まない学校づくりを推進し、各校における組織的な不登校への対応力の向上や教員の指導力の向上**を図ります。

いじめの認知件数は、これまでの各校の取組により昨年度は大幅に増加しました。これは、各小中学校における「初期発見→初期対応」のシステムが機能していることを表しています。小学校低学年等の早い段階からどんないじめも見逃すことなく、「いじめをしない、許さない、命を大切にする意識の醸成」が重要です。生徒指導上の課題が年々複雑化・多様化の傾向にある現在、**いじめ事案への学校の対応力や教員の指導力の向上**を図ります。



市教育相談センター
（「にこやかルーム」併設）

【今年度の研修予定】 ※ 十日町市教育センター主催、県教育庁生徒指導課主催を含む

- ◆生徒指導研修会「いじめ対応」（主催：市セン）【5月27日(火) PM 管理職対象】
- ◆いじめ見逃しゼロ・不登校対応研修（主催：県生徒指導課）
【5月28日(水) PM 管理職・生徒指導担当者対象】
- ◆生徒指導研修会「不登校対応」（主催：市セン）
【6月25日(水) 教育相談・校内教育支援センター担当者等 対象】

市学校教育の重点 共通課題「特別支援教育の充実」に向けて ～全ての教師の専門性の向上を図ります～

特別支援教育（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導）を受ける児童生徒が年々増加傾向にあります。「障害のある児童生徒を含め、多様な児童生徒が通常の学級に在籍している」ことを前提として、全ての児童生徒に対し、高い学習効果が得られるよう分かりやすい授業づくりを進め、通常の学級において安全・安心に学ぶことができるよう、多様性を尊重した学級経営が求められます。そのためには、特別支援学校や特別支援学級担任だけでなく、**全ての教師の特別支援教育に関する理解と知識の向上**が必須です。十日町市では、特別支援教育にかかわる研修会（校内外問わず）に年間1回以上参加した教員100%を目指し、研修の充実を図っていきます。

今年度も、通常の学級担任向けの「基礎講座」や管理職向けの「学校運営講座」、特別支援教育コーディネーター向けの「養成講座」「授業公開講座」を開設します。

※「**研修講座パンフレット（チラシ）**」が配付されています。詳細を知りたい方は、**自校の特別支援教育コーディネーター**にお問い合わせください。

学習指導班より

デジタル、紙をつかった学習と特徴

デジタルを使った学習と紙を使った学習の特徴をよく知っておくことで、児童・生徒が効率的に学習を進めることができます。以下に両者のメリットをまとめてみました。

デジタルを使った学習	紙を使った学習
・デジタル教材によって、ゲーム感覚で学習に取り組むことができ、意欲がわく。 ・動画や音楽など、視覚や聴覚を刺激し、感覚的に学ぶことができる。 ・ドリルパークなど繰り返し学習することを簡単に行うことができ、結果をデータとして自分で見ることができる。 ・わからないことを容易に自分で調べることができる。	・自分の手を動かして学習することで記憶に残りやすく理解が深まる。 ・紙の教材は昔からあり、さまざまなものが販売されているため、自由に選べる。 ・付箋などを活用することで、必要なページにすぐにたどり着ける。

デジタルを使った学習、紙を使った学習、両者のメリットを理解することで、場面や子どもの適性に合わせた学習を行うことができます。指導者用デジタル教科書（小学校

R6～、中学校 R7～）は全教科使用可能です。学習者用デジタル教科書（小学校3年～中学校3年の英語、算数・数学は希望した学校）も活用してください。

指導者用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書の使用方法について、教科書会社によってプラットフォームが違うため、次の作業が必要となります。

教科書会社	使用方法
東京書籍、三省堂 『Lentrance』 プラットフォーム	① https://www.lentrance.com/school/login のページを開き、 <u>Google でログインを選択</u> 。 ② ログインは、個人のメールアドレスとパスワードを使用。 (tt〇〇〇@student.edu.city.tokamachi.niigata.jp)
学校図書、日本文教出版 開隆堂、教育出版 『みらいスクール デジタル教科書』 プラットフォーム	① https://mirai-pf.jp/user/login.html のページを開く。 <u>Google でログインを選択する</u> 。 ② ログインは、個人のメールアドレスとパスワードを使用。 (tt〇〇〇@student.edu.city.tokamachi.niigata.jp)
光村図書、教育芸術社 光文書院 『まなビューア』 プラットフォーム	① https://manaviewer.jp/ のページを開く。 <u>Google でログインを選択する</u> 。 ② ログインは、個人のメールアドレスとパスワードを使用。 (tt〇〇〇@student.edu.city.tokamachi.niigatai.jp)
帝国書院 『超教科書クラウド』 プラットフォーム	① https://p01.cloud.cho-textbook.jp のページを開く。 Google でログインを選択する。 ② ログインは、個人のメールアドレスとパスワードを使用 (tt〇〇〇@student.edu.city.tokamachi)

■ドリルパークを活用してください！

ドリルパークは、学習意欲を高め、個別最適な学びに利用できるツールです。授業と家庭学習で「ドリルパーク」を使ってください。そして、校内の先生方で情報共有し、効果的な活用を研究し、進めてください。よろしくお願いします。

1 どこからドリルパークを使うか

学校ごとにトップページが違うので、全学校のドリルパークのトップページを紹介します。

10.204.1.43/drill/index.html

自校のページ（先生用か生徒用）を開いて、「スタートーGoogle アカウントでログイン」から、使ってください。お気に入り登録すると、家庭でも使えます。iPad はドリルパークアイコンから使います。

2 操作方法を教えて

基本操作動画がお勧めです。ドリルパークの操作方法を解説しているのでやってみましょう。

[学習の流れ | アプリの操作・基本操作 Benesse](#)



3 オーダーメイド課題配信がおススメ

テスト前に、テスト範囲の復習を 10 分間ですとします。テスト範囲の単元を選択し、オーダーメイド課題を配信し、子どもが課題に取り組んでいるとき、先生が机間巡視して支援します。

4 宿題として活用

学年や学年部で宿題を出すのは、働き方改革にもなり効果的です。オーダーメイド課題配信は、宿題として活用できるので上手に使ってください。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～6・7月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
5 月 26 日(月) ～	第 1 回 WEBQU 開始 (～ 6 月 7 日)	
5 月 29 日(木)	サポート訪問研修開講式 【川西庁舎 (対面)】	
6 月 5 日(木)	第 2 回特別支援教育コーディネーター養成講座 「教育相談・保護者との連携」 【川西庁舎】	講師：上越地区手をつなぐ育成会 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任 等
6 月 12 日(木)	新採用・若手事務職員研修 (郡市) 【川西庁舎 (対面)】	
6 月 13 日(金)	居心地のよい学級づくりアドバイザーによる学校訪問開始	12 月まで 希望する学校
6 月 19 日(木) ～	ICT を活用した授業公開開始	12 月までに市内 19 か校
7 月 2 日(水)	重点教科 (社会科) 訪問授業研修会 【中里中】	
6 月 25 日(水)	生徒指導研修会「不登校対応」 【情報館】	講師：東京学芸大学 准教授 対象：教育相談担当教員 校内教育支援センター担当教員
7 月 25 日(金)	第 2 回教育支援員研修会 【千手コミセン】	講師：学校教育課 課長補佐・指導主事 通級指導教室担当教員 等 対象：教育支援員・学校看護師
7 月 25 日(金)	情報教育担当者会議②	
7 月 29 日(火)	図書委員会サミット (午後日程) 【情報館】	
7 月 30 日(水)	特別支援教育研修講座「運営講座」	講師：上越教育大学 教授 対象：管理職 特別支援教育コーディネーター
7 月 30 日(水)	事務職員研修 (郡市) 【川西庁舎 (対面)】	

【表紙写真の説明】

架け橋期の円滑な接続を図るべく、千手中央コミュニティーセンターに園・校 49 人の担当者が集まって、研修会を行いました。小学校 16 校から 17 名、特別支援学校から 1 名、保育園・認定こども園 22 園から 31 名の参加者があり、有意義な研修となりました。

初めに、新潟県幼保小架け橋センターの幼保小架け橋プログラム総括コーディネーターの松田洋之様、高橋淳様からアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの意義と作り方についての講和をいただきました。連携する学校と園のありかたや具体的なカリキュラムの作り方についてアドバイスをいただきました。さらに実践例も示していただき、今後の見通しを理解することができました。

ワークショップでは、小学校区や中学校区などを中心にグループ編成を行い、これまでの連携を振り返るとともに目指す子ども像や今後どのような連携をしていくかなどについて話し合いを行いました。架け橋プログラムの編成は、今後の研修や打合せを経て作っていきます。